

平成 31 年 2 月 1 日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 香川県立高松桜井高等学校 ・ 八田 由美
2. 講師氏名: Dr. Benjamin M. POIGNARD
3. 同行者氏名: _____
4. 実施日時: 平成 31 年 2 月 1 日 (金) 15:45～ 17:15
5. 参加生徒: 1 年生 7 人、 2 年生 2 人、 3 年生 0 人 (合計 9 人)
備考: (普通科の生徒で希望者)
6. 講義題目: "Why being a researcher?" (なぜ研究者なのか)
7. 講義概要:
 1. 自己紹介
 - ・研究者をめざしたきっかけ
 - ・フランスの教育について
 2. 研究について
 - ・統計と確率の違いについて
 - ・応用数学について(金融や医学分野への応用)
 3. フランスの歴史について
 - ・ローマ帝国以前から現在まで
 4. 質疑応答
8. 使用言語: 英語・日本語
9. 講義形式:
 - (1) 講義時間 80 分 質疑応答時間 10 分
 - (2) 講義方法 (例: プロジェクター使用による講義、実験・実習の有無など)
プロジェクター、黒板の使用による講義
 - (3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)
専門的な用語や概念などについて、ご本人による説明がありました
 - (4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)
10. その他特筆すべき事項:
講師の方が数学の研究をされていると伺い、事前にメールを通じて、なるべく数式などを用

いた理論的な内容は少なくしていただけるようお願いしていた。また、講師ご本人が専門的な内容について英語で話した後、日本語で説明して下さい、聞いていた生徒にとってはとても助かったようです。統計の手法を用いて複雑な事象を解析して未来を予測するという内容は若干難解でしたが、金融や医療など身近なところでも使われている技術と知り、興味を惹かれたようでした。事前の学習をどのようにしたらよいかわからず、今回はいきなり講義に臨む形になってしまい、準備をする側の反省点となりました。講師の方は時折はさまれる生徒の質問にも真摯に答えて下さり、時に大丈夫と励ましの言葉もかけてくださり、とてもありがとうございました。